

タウンリリミス寓話

「転生」



2022/01/23 エリー ELYE

目次

本文	1
----------	---

本文

生まれた時、彼女は何でもできるし、なんでもしたいと思いました。
周りには彼女を見ている優しい瞳がありました。
しかし彼女は全然気づきません。

はじめにお母さんの真似をして洗濯物をたたみました。
お母さんのようにはきれいにたためなくて彼女はがっかりしました。

次に料理をしました。
かたくてまずくて泣きました。

大人になってもできないことばかりで、挑戦するたびしょんぼり。

そんな彼女の後ろからそっと彼が見詰めています。
けれども彼女はできるようになろうと必死です。

満足できないまま彼女は亡くなりました。

生まれ変わった彼女は、今度こそなんでもできるようになるぞと誓いました。

そんな彼女に会いたくて、彼も生まれ変わりました。

幾千、幾万、幾億の時が流れます。

彼女はずっと見えないゴールに向かって歩き続けます。
どんなに苦しくても立ち止まりません。
歯を食いしばってのろのろと進みます。

そんな彼女が振り向いてくれることを願って、彼はひたすら待ちました。
彼女が泣くと彼も泣いてしまいます。
彼女が笑うと彼も喜びます。

彼の心は彼女でいっぱいです。
彼女の心は彼女だけです。

彼は祈りました。
「どうか僕に気づいてください」

すると風が吹き、彼女の帽子を吹き飛ばしました。
彼が拾って渡すと二人の瞳は見つめ合います。

彼女の心にほんの少し彼が混じりました。
彼の愛に包まれて、彼女は初めて立ち止まります。

彼女は彼に話しかけました。
「こんにちは。風が強い日ね」
「風が君の帽子を僕に届けてくれた。なんていい日だろう」

二人は芝生に並んでおしゃべりしました。

やがて二人は死を迎えました。

彼女は彼に会うため生まれ変わりを望みました。
彼も同じ気持ちです。

二人はともに生きて死にました。

彼女はたどり着かない悲しみから解放されて、生きる喜びを知りました。
繰り返される生を楽しみ、永遠を願います。
夜空には満天の星が輝いています。

トゥンリリミス寓話「転生」

著 エリー ELYE

制作 Puboo
発行所 デザインエッグ株式会社
